

令和6年度 江戸川区立二之江中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	全校：「いま」「ここ」で頑張る生徒を育てる ・健康で心豊かな人 ・自ら学び実行する人 ・協力し合い責任を持つ人 特別支援学級：社会的自立を目指し、人との関わりの中で心豊かな生活を営む力をはぐくむ ・身近生活の確立と処理 ・基礎的学力の定着 ・コミュニケーション能力の育成		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	日本一生徒を大事にする学校 「いま」「ここで」頑張れる生徒 指導に迷ったときは、生徒にとってどちらが良いかを基準に判断できる教師	
前年度までの本校の現状	成果	・江戸川区教育課題実践推進校として研究し、自習のようで自習ではない授業の実現が図れた ・プロラグビーチームのクボタスピアーズの選手を招いたタグラグビー教室を、特別支援学級において各学期で実施できた	課題	・今年度、教員が半分近く入れ替わったため、4人組・コの字型学習の学習効果を認識している教員が減った ・タグラグビー教室が特別支援学級の実施にとどまってしまった	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的対応の実施・充実	・コの字型机配置・4人組グループ学習授業の定着	・全国学力調査でAB層を6割以上にし、平均正答率を都平均以上にする	C	B	B	・授業研究会、全体研修会をこれまで9回実施し、コの字型机配置・4人組グループ学習授業の定着が図れた。	B	・4人組で生徒同士で問題解決をしていく学習は生徒にとって有効であった。	A	・授業研究会を途中から月1回に修正したが、全員がデザインを作成するようにしたことグループ学習授業の定着が図れた。	A	・授業研究に熱心に取り組んでいるので、引き続きお願いする。	・授業研究会が、より自分事として考えられるように研究進路部の教員中心に検討させていく。
		・ICTを活用した授業の充実 ・放課後補習教室の効果的な活用	・区学力調査で、AB層を7割以上にし、区平均より10ポイント以上にする	C	B	B	・放課後補習教室の登録者一人一人の出席カードを用意し、参加予定日を担任が把握し、出席につなげることができた。	C	・ミライシードについて強制的に取り組ませることが正解とは思わないが、習慣づけたのであれば、自主性に任せては家庭学習は定着しない。	B	・放課後補習教室の登録者に適宜出席の意志を確認し、登録者の入れ替えを行うことで、よりニーズにあった活動につなげることができた。	B	・ミライシードの取組が強制的でないに取り組めていないため、自主的に取り組むような意識づけをしてほしい。	・EDOスクという年間90回の活動に変わるが、本校の生徒のニーズにあった形で実施できるようにしていく。
	○読書科の更なる充実	・総合的な学習の時間のテーマに沿った探究学習の授業の実施	・各学期に全学年で実施	A	A	A	・3年生は、修学旅行事前学習でテーマに基づいた探究学習を実施し、1、2年生は調べる学習コンクールに作品を出展できた。	C	・スマホが生活の一部となり、読解力が低下している。読み聞かせも含め、活字に触れる取組を増やしてほしい。	A	・2年生は、校外学習事前学習でテーマに基づいた探究学習が実施できた。また、よむYOMUワークシートの効果的な活用法を考え、取り組むことができた。	A	・調べる学習コンクールで優秀な成績を収めたと聞いているので、引き続き、本から学ぶ生徒を増やしてほしい。	・年間を通して、探究学習が計画的に実施できるよう、見直しを図っていく。
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・補強運動を年間指導計画に基づいて確実に実施する	・毎時間の授業開始時5分間を帯活動にしている	A	A	A	・授業開始時5分間は、体力向上を目的として補強運動が実施できた。			A	・授業開始時5分間は、体力向上を目的として補強運動が実施できた。	A		・体力向上への補助運動が単元ごとに適切かを見直しを図り、より適切な取組をしている。
	○昼休みの外遊びの推奨	・週に一度でも外で遊ぶように促していく	・全校で80%以上にする	C	C	B	・6月末から9月末までは、熱中症アラートの影響で、体育や部活動を含め、外での活動が制限されてしまった。	B	・なぜ運動が大切なのかを理解させるより、体感させていくことが大切だと思う。もっと、外遊びを促してほしい。	B	・夏は熱中症アラートの影響があったことや、放課後の活動等のために昼休みに学級活動や清掃活動を実施することが多く、昼休みがカットされることが多かった。	B	・なるべく外で遊ばせて、体を動かすことの楽しさを味わわせてほしい。	・昼休みに終学活等をなるべく実施せず、外遊びの時間が確保できるようにする。
	○体力テストの取組の強化	・4月中に各種目について授業中に習熟させて5月に実施する	・今年度は区平均とし、次年度は6月実施で都平均を越える	未	C	B	・今年度は5月初旬に実施したため、6月末までに向上した体力が反映されない点を踏まえ、次年度は実施時期を6月に実施する。	B	・全国や全都で活躍している生徒がいる反面、全体としては、他校と比べて低いと聞いた。それが実施時期の問題なら見直しをすべきである。	B	・今年度は5月初旬に実施したため、6月末までに向上した体力が反映されない点を踏まえ、次年度は実施時期を6月に実施する。	A	・測定期間を1か月後にするとということで、それまでに体力をつけ、今年よりも良い成績になることを期待する。	・体力テストを6月に実施することとし、各項目の向上に向けての練習を計画的に進めていく。
実現に向けた教育の推進 共生社会の推進	○個に応じた支援（合理的配慮）の理解と推進	・校内支援会議、特支運営会議を実施し、テストも含め、個に応じた支援の共通理解を図り対応する	・生徒向け学習アンケートで、肯定的な回答を8割以上にする	未	A	A	・テストではルビ振り対応、別室で受検対応などができた。また、9月の研修で指導主事を招き、支援の考え方について学ぶことができた。	B	・自己を客観視できるツールを積極的に取り入れ、他者を理解し受け入れることの大切さを伝えてほしい。	A	・隔週で実施している特別支援運営T会議において、テストではルビ振り対応、別室で受検対応など配慮を要する生徒への支援について対応することができた。	A		・特別支援運営Tにおいて、配慮が必要な生徒について、どのような手だてが必要かを検討できるようにしていく。
	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・4人組グループ学習、コの字型机配置を継続し、自分のペースで学習できる手立てや資料を用いた授業の実施	・生徒向け学習アンケートで、肯定的な回答を8割以上にする	未	A	A	・授業研究会、全体研修会をこれまで9回実施し、誰一人取り残さない授業実現に向けて、生徒から学ぶことができ、声掛けや資料等の改善が図れてきている。	A	・研修会を多く実施し、学ぶ意欲が高い教員が多いことは評価できる。引き続き、子供たちのために自己研鑽を図ってほしい。	A	・授業研究会、全体研修会を途中から月1回の実施とし、誰一人取り残さない授業実現に向けて、生徒から学ぶことができ、声掛けや資料等の改善が図れた。	A	・研修会を多く実施し、学ぶ意欲が高い教員が多いことは評価できる。次年度も、子供たちのために自己研鑽を図ってほしい。	・個に応じた指導について、校内研修会を通して教職員全員が意識をもてるようにする。
不登校・いじめ	○ステップサポーター、別室指導支援員と連携した登校支援	・支援記録を作成し、隔週実施の特別支援会議で状況把握し、登校支援の手立てを検討する	・不登校生徒の出現率を4％以下にする ・どこにもつながらない生徒の割合を0％にする	A	A	A	・不登校生徒に対し、校内別室指導を提案し、登校復帰につなげることができた。 ・毎週1回の支援会議で不登校生徒の状況を幹部教員が共有し、支援の在り方を協議できている。 ・電話連絡、家庭訪問などを通して、週1回以上の家庭とのやり取りができている。	A	・別室で過ごすことでまずは学校を居場所として確保できている点は良いと思う。引き続き、対応をお願いしたい。	A	・不登校生徒に対し、校内別室指導を提案し、登校復帰につなげることができた。特に3年生では進学指導を確実にできた。 ・毎週実施の支援会議で不登校生徒の状況を幹部教員が共有し、支援の在り方を協議できている。 ・電話連絡、家庭訪問などを通して、家庭との確実なつながりができた。	A	・別室で過ごすことでまずは学校を居場所として確保できている点は良いと思う。引き続き、対応をお願いしたい。	・不登校の生徒が登校できるように、不登校担当教員を中心に、本人や保護者と面談をして考えを共有し、全教職員が共通認識の下で対応できるようにする。

対応の充実	〇いじめの未然防止と発生後の初期対応の迅速化	・いじめ防止基本方針を理解し、全教職員が共通理解のもと、対応できるようにする	・いじめアンケート及びいじめに関する授業を各学期で実施し、早期対応につなげる	A	A	A	・いじめ対応時には、教職員全員が内容や対応状況について把握できるようにファイル共有を図れた。 ・校内支援会議終了後、いじめ対策会議を年3回は実施し、情報共有を図り、いじめの未然防止に努めることができた。	B	・いじめの残酷さをもっとしっかり理解し、いじめを許さない気持ちを育む必要がある。	A	・いじめ対応時には、教職員全員が内容や対応状況について把握できるようにファイル共有を図れた。 ・いじめ発生時は、校内支援会議終了後にいじめ対策会議を確実に実施し、情報共有を図り、いじめ解消に向けて組織的対応ができた。	A	・いじめは卑劣な行為であるということをしっかりと理解し、いじめを許さない気持ちを育ませてほしい。	・本校のいじめ防止基本方針を全教職員が理解し、年3回のいじめに関する授業、アンケート、研修を確実に実施していく。	
学校（園）の実現	地域社会に開かれた学校（園）の実現	〇学校（園）ホームページの充実 〇学校（園）公開の実施・充実	・校内の出来事を発信する ・保護者会や土曜授業、道徳授業地区公開講座の実施	・各学年で担当者を決め、毎日学校HPを更新していく ・保護者の学校評価アンケートの回答率を80%以上にし、そのうち肯定的な意見を80%以上にする	未	A	A	・ほぼ毎日、学校の教育活動の様子について発信することができた。 ・学校公開、道徳授業地区公開講座では、多くの保護者に来校していただき、教員と保護者の交流も図ることができた。	B	・学校への関心が低い保護者に対し、我が子以外の生徒たちにも関心がもてるような機会をつくり、積極的に学校に足を運ぶように促してほしい。	A	・ほぼ毎日、学校の教育活動の様子について、学校HPやtetoruで発信することができた。 ・学校公開、道徳授業地区公開講座では、多くの保護者に来校していただき、教員と保護者の交流も図ることができた。	A	・毎日、学校HPの記事が更新されており、学校の様子がよくわかる点は良いと思う。学校への関心が低い保護者が少しでも見てもらい、関心を高められると良い。	・開かれた学校づくりに向けて、引き続き学校の様子を発信することや、本校の教育活動を見てもらう機会を増やし、関心を高めていきたい。
		〇教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・コミュニティスクール準備委員会委員の意見を聞き、特色あるCSづくりの準備を進めていく	学校関係者評価でAの項目が8割以上にする	未	A	A	・7月に学校評議員会と二之江中を愛し育てる会総会を開催することができ、意見交換をすることができた。	A	・コミュニティスクールとは何かを理解し、またそれぞれが果たすべき役割を学校と協議して何ができるかを確認していきたい。	A	・年3回の学校評議員会、7月に二之江中を愛し育てる会総会を開催することができ、意見交換をすることができた。 ・学校関係者評価を学校HPにあげ、保護者、地域と共有できた。	A	・コミュニティスクールとして、構成員のそれぞれが果たすべき役割を学校と協議して何ができるかを確認していききたい。	・次年度も準備期間ではあるが、実施回数を増やし、構成員が意識して参加してもらえるようにしたい。
教育の展開	特色ある教育の展開	働き方改革プランに基づく取組の実施	・会議等のペーパーレス化 ・定時退勤日	・月70時間以内が平均勤務時間となる教員を7割以上にする	B	B	B	・定時退勤日の意識が定着することができたが、一部で産業医面談をする教員がいたため、働き方の見直しを促していく。	B	・月70時間以上の勤務時間という教員がいるとのことなので、働き方を改善できるようにしてほしい。	B	・定時退勤日の意識が定着することができたが、一部で産業医面談をする教員がいたため、働き方の見直しを促していく。	B	・夜遅くまで職員室の電気がついているので、いつも忙しいのだと心配している。	・業務の偏りがないように、仕事内容の分散化を図っていく。
		〇効率的な事務の運用	・学校が管理すべき財産の整理整頓	・電子データ中心の業務に転換し、ファイルサーバー内のフォルダやファイルの整理整頓を行う	A	A	A	・サーバー内のフォルダを誰もが分かりやすく整理することができた。しかし、動画ファイルが容量を圧迫しているため、定期的に整理していく。			A	・サーバー内のフォルダを誰もが分かりやすく整理することができた。しかし、動画ファイルが容量を圧迫しているため、定期的に整理していく。	A		・サーバー内のフォルダを管理する責任者を決め、容量が足りなくなる事態を避けられるようにする。また、フォルダの分類を分かりやすくし、前年度の内容が引き継げるようにする。
		〇自己有用感及び愛校心を育む取組	・二之江中を愛し育てる会の標語コンクールの実施 ・地域行事へのボランティア参加	・各学期に全学年で実施 ・民舞和太鼓部、吹奏楽部、ボランティア部等の部活動や生徒会による地域活動に積極的に参加する	A	A	A	・標語コンクールを実施し、最優秀賞の懸垂幕を掲げている。 ・民舞和太鼓部、吹奏楽部は地域の施設のイベントや盆踊りを演奏等で盛り上げた。またボランティアに積極的にかかわる生徒が増え、地区運動会の運営、区主催のボランティア活動に貢献している。	A	・イベントを企画運営し、地域を盛り上げ、楽しく生きている大人たちと交流し、学校愛、郷土愛を育ててほしい。	A	・標語コンクールを実施し、最優秀賞の懸垂幕を掲げ、仲間を大切にすることを育むことができた。 ・民舞和太鼓部、吹奏楽部は地域の施設のイベント等で演奏を披露し盛り上げた。またボランティアに積極的にかかわる生徒が増え、地域行事の運営、区主催のボランティア活動に貢献できた。	A	・イベントを企画運営し、地域を盛り上げ、楽しく生きている大人たちと交流し、学校愛、郷土愛を育ててほしい。	・二之江中を愛し育てる会が企画する標語コンクールを通して、自己肯定感を高め、学校愛を育てていきたい。